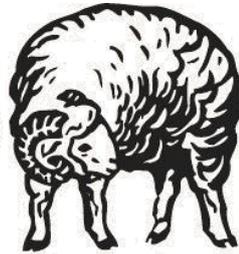


KD0916

2025年7月

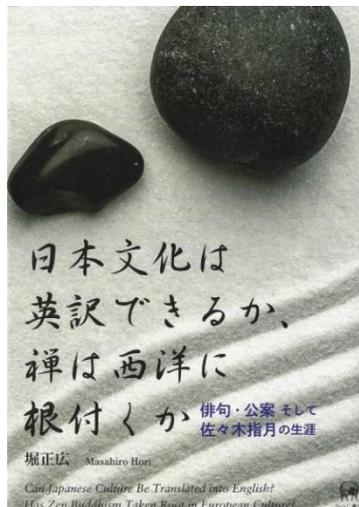
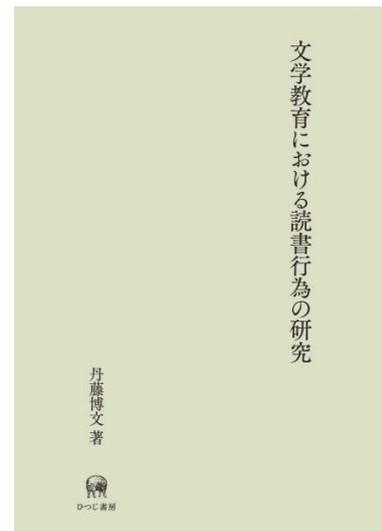
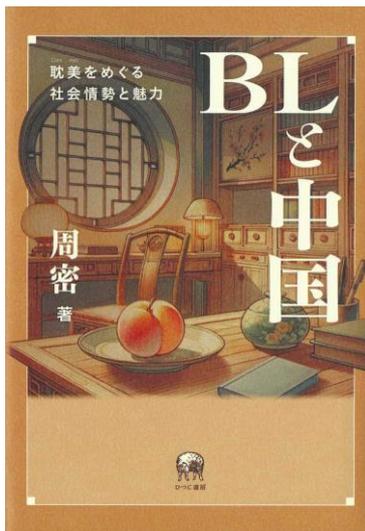
販売可能機関：すべての機関



対話とコミュニケーションを考え  
学術研究と市民知をつなぐ出版社

# ひつじ書房

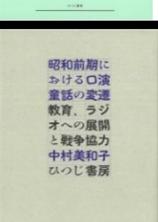
## 新 着 コ ン テ ン ツ



価格・タイトル一覧

➡[https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0916\\_list.xlsx](https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0916_list.xlsx)



| NO   | 書影  | 書名   | 著者    | ISBN          | 底本刊行<br>年月 | Product ID                 | 同時アクセス1<br>本体価 | 同時アクセス3<br>本体価 |
|------|---|--|-------|---------------|------------|----------------------------|----------------|----------------|
| 内容紹介 |   |  |       |               |            |                            |                |                |
| 1    |    | <b>BLと中国 ——<br/>耽美（Danmei）をめぐる社会情勢と魅力</b>  | 周密    | 9784823412295 | 202403     | <a href="#">KP00112906</a> | ¥11,220        | ¥16,830        |
|      |   | 中国のボーイズラブ（BL）は、1990年代に日本のBLから影響を受けて始まった。現在では、中国BL小説が原作のアダプティオンドラマ『陳情令』を筆頭に、中国BLは世界中で人気を博し中国のソフトパワーにもなっている。厳しいメディア規制の環境下でも発展してきた中国BLをめぐる、人気作品で講じられる適応策やBL・メディア業界に関わる中国の社会情勢を分析する。中国のBL（耽美／Danmei）を論じた、日本語による初の研究書。                      |       |               |            |                            |                |                |
| 2    |    | <b>やさしい日本語の時代に、やさしい介護のことばを</b>   | 遠藤織枝  | 9784823412134 | 202405     | <a href="#">KP00112897</a> | ¥8,580         | ¥12,870        |
|      |   | 2008年にEPA（経済連携協定）の外国人の看護・介護の専門家養成事業が始まり、介護福祉士候補者の日本語支援に関わることになった。初めて、現場の日本語に接した時の衝撃は忘れない。申し送りや介護記録の用語は、日常の語と全く異なり難解であった。調べていくうちにそれらは明治以来踏襲の語とわかった。漢字の環境も、働く人の実際も大きく変化した現在、難解な語のままにしておいていいのだろうか。  |       |               |            |                            |                |                |
| 3    |    | <b>文学教育における読書行為の研究</b>   | 丹藤博文  | 9784823412141 | 202401     | <a href="#">KP00112898</a> | ¥23,760        | ¥35,640        |
|      |   | 本書は学校教育における文学教材の読みについて、読書行為の観点からその有効性を明らかにし、その成立のための方法を提案する。まず戦後文学教育を読書行為論の視点から批判的に検討し、また、文学の機能を教室で生かすために、言語論的転回以後の読書行為論の理論と方法を構築した。さらに文学教材をナラティブ・メソッドにより分析していくことで、テキストの行為を可視化することを試みる。文学教育の新たな理論と実践の書。〈日本学術振興会助成刊行物〉                  |       |               |            |                            |                |                |
| 4    |   | <b>&lt;ひつじ研究叢書&lt;言語編&gt; 199&gt;<br/>日本語助詞「を」の研究</b>  | 佐伯暁子  | 9784823412011 | 202403     | <a href="#">KP00112890</a> | ¥20,460        | ¥30,690        |
|      |   | 本書は、古代語と現代語の両面から、助詞「を」の体系化を目指したものである。まず、現代語の格助詞「を」の個別用法とそれら各用法のつながり、古代語と現代語の二重ヲ格について実証的に考察する。そして、現代語に残存する接続助詞「を」を取り上げ、その歴史の解明を通して、接続助詞的な「を」との関係りへと展開する。文法変化も視野に入れることで、格助詞「を」・接続助詞的な「を」・接続助詞「を」の連続性を論証する。                               |       |               |            |                            |                |                |
| 5    |  | <b>&lt;熊本学園大学付属海外事情研究所研究叢書 35&gt;<br/>日本文化は英訳できるか、禅は西洋に根付くか ——<br/>俳句・公案そして佐々木指月の生涯</b>  | 堀正広   | 9784823412318 | 202403     | <a href="#">KP00112907</a> | ¥19,140        | ¥28,710        |
|      |   | 本書は、異文化の翻訳と異文化の移動における受容の問題を扱っている。本書の構成は二部からなっている。第I部は、日本文化の英訳の諸問題を英語学的な視点から比較分析する。俳句・禅公案・『五輪書』、そして武士道が対象となる。第II部は、日本の禅は禅者の弟子丸泰仙・鈴木俊隆などによって広まったことを例示した後、アメリカで最初の禅センターを創設した佐々木指月の生涯を詳細に記録する。   |       |               |            |                            |                |                |
| 6    |  | <b>ワークショップデザインにおける熟達と実践者の育成<br/>第2版</b>  | 森玲奈   | 9784823412363 | 202403     | <a href="#">KP00112908</a> | ¥9,900         | ¥14,850        |
|      |   | 生涯学習時代において参加型学習の1手法である「ワークショップ」への関心が高まりつつある。本書はワークショップデザインにおける熟達と実践者の育成に関して包括的に記した第2版である。ワークショップの歴史、ワークショップ実践者の熟達と育成課題に加え、第2版では高齢者に対するワークショップ実践者育成のアクションリサーチを事例研究として追加した。未来の教育を考える上で、重要な示唆を与える書と言えよう。                                  |       |               |            |                            |                |                |
| 7    |  | <b>&lt;ひつじ研究叢書&lt;言語編&gt; 204&gt; 英語抽象名詞の<br/>可算性の研究 —— 英語教育の視点から</b>  | 小寺正洋  | 9784823412226 | 202402     | <a href="#">KP00112901</a> | ¥25,740        | ¥38,610        |
|      |   | 英語抽象名詞の可算性に関して解明すべき問題点を整理し、先行研究の主張を検証した。「適切な文脈があればすべての名詞は可算・不可算のどちらでも用いられる」と「不可算抽象名詞は修飾を伴うと不定冠詞と共に起する」の2つの主張についてアンケート調査およびコーパスデータにより支持されないことを示した。また、抽象名詞が可算解釈を得るメカニズムを調べ、英語学習辞典の可算・不可算表記の問題点を指摘し改善案を提示した。                              |       |               |            |                            |                |                |
| 8    |  | <b>昭和前期における口演童話の変遷 ——<br/>教育、ラジオへの展開と戦争協力</b>  | 中村美和子 | 9784823412240 | 202404     | <a href="#">KP00112902</a> | ¥23,760        | ¥35,640        |
|      |   | 子どもを集めて物語を聞かせる口演童話は、20世紀前半の日本で人気のあった児童文化で、ラジオ登場前は児童出版以上のマスメディアだったといわれる。口演童話は若い教師たちの話しかた研究に重宝され、口演童話家たちはラジオ初期のタレントとして活躍した。発展の過程でたくわえられた技術・人脈は、戦時体制が進むなか積極的に活用される。本書は語られた話材の分析をとおし、昭和前期の口演童話の展開をたどった歴史書である。                              |       |               |            |                            |                |                |
| 9    |  | <b>&lt;ひつじ研究叢書&lt;文学編&gt; 17&gt;<br/>中島敦 意識のゆらぎから複数の世界へ</b>  | 石井要   | 9784823412264 | 202405     | <a href="#">KP00112904</a> | ¥19,800        | ¥29,700        |
|      |   | 中島敦は、英国作家オルダス・ハックスレイのエッセイから、生物学者ユクスキルの環世界論をはじめ、「人間」の認識・思考・存在のあり方を根底から揺さぶる科学的知見を受け取っていた。理想的な国民の「人間性」が喧伝される戦時下の時代状況において、中島敦が捉えていた「人間」の姿とはどのようなものだったのか。本書では、中島敦が受容していた科学的知見を視座として、存在と世界のあり方を問い直す中島敦文学の新たな一面を浮き彫りにする。                      |       |               |            |                            |                |                |
| 10   |  | <b>&lt;シリーズ言語学と言語教育 46&gt;<br/>作文教育の日中対照研究</b>   | 前川孝子  | 9784823411854 | 202401     | <a href="#">KP00112888</a> | ¥23,100        | ¥34,650        |
|      |   | 中国語を母語とする日本語学習者が日本語で書いた作文は、文法としては正確なのに、「何か」が違う。それは何なのか。それは何に由来するのか。この疑問に答えるため、本書では日本・中国それぞれの国語における作文の規範に注目する。両国において模範と見なされる文章の分析を通じて、「意見はどのように書かねばならないか」「どのように論証しなければならないか」という枠組みの差異を多面的に明らかにする画期的研究。                                  |       |               |            |                            |                |                |
| 11   |  | <b>日本手話の歴史的研究 —— 系統関係にある台湾手話、<br/>韓国手話の数詞、親族表現との比較から</b>   | 相良啓子  | 9784823412219 | 202402     | <a href="#">KP00112900</a> | ¥28,050        | ¥42,075        |
|      |   | 日本手話と、系統的に関係がある韓国手話、台湾手話の3つの言語の数詞および親族表現に焦点を当てて、表記法を用いて記述し、その記述に基づいて、音韻、形態、そして意味の観点から語彙の変化の特徴についてまとめている。地域により様々な表現があることが知られていたが、詳しい実態が知られていなかった3つの言語の文献資料における記述から現在にわたるデータをまとめた初めての資料である。言語学研究者、歴史研究者、教育関係者など、幅広く読んでほしい。〈日本学術振興会助成刊行物〉 |       |               |            |                            |                |                |

| NO   | 書影 | 書名  | 著者   | ISBN          | 底本刊行<br>年月 | Product ID                 | 同時アクセス1<br>本体価 | 同時アクセス3<br>本体価 |
|------|----|---|------|---------------|------------|----------------------------|----------------|----------------|
| 内容紹介 |    |   |      |               |            |                            |                |                |
| 12   |    | <片岡邦好談話分析著作選集 1> メディア談話へのまなざし ——クロスモーダル分析の試み  | 片岡邦好 | 9784823411786 | 202405     | <a href="#">KP00112887</a> | ¥11,220        | ¥16,830        |
|      |    | 1 メディア談話、2 道案内と空間描写、3 ロッククライマーの身体とナラティブ分析を扱うシリーズ全3巻の第1巻。マルチモーダル分析の手法を駆使し、メディア談話研究の可能性を拓く論文集。本書は社会言語学・言語人類学的アプローチを用いながら、書記言語、音声言語、パラ音声、身体表象などを統合的に分析対象とすることを目指し、認知的かつミクロな相互行為分析に着目する「マルチモーダル」の視座と、本書で「クロスモーダル」と呼ぶ個々の集団や文化的規範を重視するアプローチにより、メディア談話の新たな側面に光を当てる。  |      |               |            |                            |                |                |
| 13   |    | <ひつじ研究叢書<言語編> 203> 現代日本語の逸脱的な造語法「文の包摂」の研究   | 泉大輔  | 9784823412158 | 202402     | <a href="#">KP00112899</a> | ¥22,440        | ¥33,660        |
|      |    | 「振り込め詐欺」「かまってちゃん」「いいねボタン」「話しかけるなオー」という語の特異性はどのように説明できるだろうか。本書では語の内部に“文”相当の要素が含まれる現象を「文の包摂」と名付け、実例を豊富に取り上げる。それらの形式的・意味的特徴を記述した上で、引用、命名、表現効果などの観点から成立原理を説明する。逸脱表現研究のみならず、日本語史研究・他言語研究の新たな地平をも拓く、実証的かつ挑戦的な研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉                                     |      |               |            |                            |                |                |
| 14   |    | <ひつじ研究叢書<言語編> 202> 「関係」の呼称の言語学 ——日中対照研究からのアプローチ   | 薛鳴   | 9784823412127 | 202402     | <a href="#">KP00112896</a> | ¥15,840        | ¥23,760        |
|      |    | 「関係」をキーワードに、その最たるものとも言える「親族名称」とその呼称としての用法を日中対照の視点から分析していく。言語形式としての親族名称の枠組みの記述と、言語使用としての呼びかけの呼称の使い方の考察を行う。話者との関係性の有無を指標として導入することにより、日中母語話者の呼称の使い方の根本的な相違を明らかにした。著者の長年の研究に新たな知見が加わった、日中の親族名称に関する初の研究書である。〈日本学術振興会助成刊行物〉   |      |               |            |                            |                |                |
| 15   |    | <ひつじ研究叢書<言語編> 205> 音声・音韻の概念史  | 阿久津智 | 9784823412271 | 202402     | <a href="#">KP00112905</a> | ¥22,000        | ¥33,000        |
|      |    | 本書は、音声・音韻分野における用語の歴史に関する研究書である。本書では、語義や語形の変化の記述を中心とする従来の語史（語誌）研究に、専門的な概念の形成や名称の成立の過程を重視し、それを文脈の中で、他の語（概念）と対比しながら分析するという概念的な方法を加えるという試みを行った。取り上げた用語は、「音声」「発音」「発声」「音節」「音素」「音」「音韻論」「音声学」「音韻学」「半濁音」「音韻」である。   |      |               |            |                            |                |                |
| 16   |    | <ひつじ研究叢書<文学編> 18> 芥川龍之介における海外文学受容 ——旧蔵書越しに見える風景   | 澤西祐典 | 9784823412790 | 202503     | <a href="#">KP00116058</a> | ¥23,760        | ¥35,640        |
|      |    | 「あらゆるものを本の中に学んだ」（「大導寺信輔の半生」）とする芥川龍之介はどのような洋書を読み、どのように執筆に活かしていたのか。焼失した卒業論文（ウィリアム・モリス論）の正体、代表作「地獄変」の典拠、翻訳体験が芥川の文体へ与えた影響、旧蔵書に挟まれた押し花や書簡など、日本近代文学館等に残された芥川龍之介旧蔵書・洋書を手がかりに実証的に辿る。巻末には旧蔵書・洋書への書き込み一覧・読書年譜付き。  |      |               |            |                            |                |                |
| 17   |    | <未発選書 31> <学問史>としての近代文学研究 ——「はじまり」の位相   | 中山弘明 | 9784823412394 | 202405     | <a href="#">KP00112909</a> | ¥11,220        | ¥16,830        |
|      |    | 本書は、日本の近代文学研究がどのようにはじまったのかを、戦間期・戦時下・戦後と10の視点でたどったものである。それは単純に起源をどこに見るかではなく、様々な研究会の動向に着目し、さらには卒論のあり方、全集の作られ方、雑誌や新聞をもちいた研究の歴史など、研究の「日常」にも光をあて、現在に接続させる。人文系の研究が岐路にある現在、文学研究の学知のあり方を〈学問史〉という新視点から解明するものである。   |      |               |            |                            |                |                |
| 18   |    | <Hituzi Linguistics in English 38> The No More A than B Construction ——A Cognitive and Pragmatic Approach   | 廣田篤  | 9784823412257 | 202403     | <a href="#">KP00112903</a> | ¥26,400        | ¥39,600        |
|      |    | 本書は、No More A than B構文、特に「クジラ構文」とは何か、その本質を解明しようとするものである。その際、2つのアプローチを採用する。1つは、認知文法に基づいた構文の意味構造図の記述である。もう1つは、推論における「対偶」の関係に着目した語用論的な分析である。そうしていくつかある用法を動機づける条件を検討し、従来様々に議論されてきた構文の用法間の関係に対して原理的な説明を与える。  |      |               |            |                            |                |                |
| 19   |    | <ひつじ研究叢書<言語編> 209> アヤクーチョ・ケチュア語の移動表現 ——実験的手法を用いた類型論的研究  | 諸隈夕子 | 9784823412691 | 202502     | <a href="#">KP00112910</a> | ¥29,040        | ¥43,560        |
|      |    | 「家に入る」「階段を上る」といった移動表現の類型論は、概念の普遍性と表現の多様性から古くより注目を集めている。アンデス地域の歴史的リング・フランカの1つであるケチュア語では、移動表現にどのような特徴が見られるのだろうか。本書ではアヤクーチョ県を中心に使用されるケチュア語に注目し、実験的手法で得られたデータを元に、この言語の移動表現の類型論的特徴を、世界で初めて総論的・体系的に記述する。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉  |      |               |            |                            |                |                |
| 20   |    | <Hituzi Linguistics in English 37> Perception and Linguistic Form   | 徳山聖美 | 9784823412110 | 202404     | <a href="#">KP00112895</a> | ¥24,200        | ¥36,300        |
|      |    | 本書は知覚動詞構文に関する様々な疑問を解き明かす。Mary looks happy.は「私」が認知主体なのになぜMaryを主語とするのか。Mary appears happy.とはどう異なるのか。That sounds interesting.の動詞はなぜlistenではだめなのか。非文法的とされるI saw him tall.のような構文が小説などで散見されるのはなぜか。これまで見過ごされてきた言語事実を提起し、談話データの文脈的要因に焦点を当てて知覚動詞構文を認知言語学的そして語用論的に捉え直す。 |      |               |            |                            |                |                |

・上記の全コンテンツにつき、同時アクセス2の本体価は設定されていません。  
 ・上記の全コンテンツにつき、フォーマットはPDFです。



価格・タイトル一覧⇒[https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0916\\_list.xlsx](https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD0916_list.xlsx)